



若きふたりが厳しいレースながらも 果敢な走りで成長を実感



2016年オートボックス 全日本カート選手権 第5戦・第6戦

■開催日:7月9~10日 ■開催場所:千葉県・茂原ツインサーキット ■天候:9日 雨/10日 晴 ■路面状況:ウェット~ドライ ■参加台数:25台

国内カートレースの最高峰に位置する全日本カート選手権KFクラスの第5戦・第6戦(全10戦)が、7月9~10日に千葉県の茂原ツインサーキット東コースで開催された。場内に二つのコースを有する茂原ツインサーキットの東コースは、1270mの全長を誇り、自動車のスポーツ走行にも使用されるサーキットとあってコース幅も広く、オーバーテイクのチャンスも多い高速タイプのサーキットとなっている。

大会初日、9日の天候は雨で、この日に行なわれたタイムトライアルは、ストレートでもマシンが横滑りするほどの厳しいウェットコンディションの中での走行となった。トヨタ・ヤマハレーシングチームのふたりのドライバーは、三宅淳詞(31号車)が13番手、太田格之進(30号車)が15番手。ブリヂストンタイヤを使用するマシンに限れば三宅は3番手、太田は4番手だった。

KFクラスのタイムトライアル終了後、さらに雨脚が強まり、スケジュール進行は一時中断された。この中断が長引いたため、9日の最後に予定されていた第5戦の予選は10日へ順延となった。三宅と太田は天候の好転が期待される10日のレースにポジションアップを期して臨んだ。





第5戦 太田格之進：予選11位・決勝8位 / 三宅淳詞：予選10位・決勝17位

予選ヒート (15周)

大会2日目の10日は快晴となった。雨が降り続き気温も低かった前日とは打って変わって、この日のサーキットには眩しい陽光が降り注ぎ、気温も大幅に上昇した。ただし空気が乾いており、例年の茂原大会のような蒸し暑さは、さほど感じられない。

レースが始まると、太田は走行ペースにもタイヤの磨耗にも良い手応えを掴みながら快調にラップを重ね、グリッドから7ポジションアップの8番手でゴール。しかし、ヒート終了後にプッシングのペナルティを課せられて11位に降格となった。三宅は茂原でのレースが初めてだったが、マシンに好感触を得ながら10番手前後を走行。レースが終盤を迎えるとペースの悪化を感じるようになったが、それでも10位に踏み留まって、このヒートを走り終えた。

決勝ヒート (26周)

第5戦の決勝も快晴のもとスタートした。太田はレース序盤に順位を上げ、5~6台が一列になった7番手集団に加わって周回を重ねていく。この日のレースでアクシデントが度々発生しているのを見ていた太田は、接触しないように細心の注意を払い、それでもアグレップにバトルを繰り広げながら走行し、グリッドから3つ順位を上げて今季自己最高の8位でフィニッシュした。

三宅はレース序盤に不運なアクシデントに巻き込まれ、マシンのバランスが悪化して苦しい走行を強いられることとなった。思うように走らないマシンで奮闘する三宅だったが、順位は徐々に下がっていく。それでも三宅はレースを諦める様子を見せることなく全力で走り続け、17位でチェッカーを受けた。

2016年全日本カート選手権 KF class 第5戦 リザルト (25台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	3	宮田 莉朋	EXPRIT TAKAGI RACING	26
2	34	角田 裕毅	Drago CORSE	26
3	11	名取 鉄平	Team Birel ART	26
8	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	26
17	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	26

第6戦 太田格之進：予選8位・決勝7位 / 三宅淳詞：予選14位・決勝12位

予選ヒート (15周)

午後に入ると空には薄雲が広がり、暑さが少し和らいだ中でのスタートとなった。

15番グリッドから発進した太田は、レース序盤にトップ10圏内まで順位を上げると、実力が伯仲する中段グループの中で果敢にバトルを繰り広げて1台をパスした。さらに最終ラップにも1台を交わし、7ポジションアップの8位でゴールした。三宅はスタート直後からマシンの動きに良い手応えを掴んでいたのだが、キャブレターを最適な状態に合わせることができず、ストレートスピードが伸びない状態で戦わざるを得なかった。このためポジションを徐々に下げ、14位でこのヒートを終えることとなった。

決勝ヒート (26周)

この大会最後のレースとなる第6戦の決勝は、午後4時に戦いの火蓋を切った。

太田はスタート直後から快調に順位を上げ、3周目には5番手に浮上した。しかし、この後6番手に下がって走行している最中、前走車のタイヤから飛び散ったゴムかすがフロントブレーキに詰まり、フロントブレーキの効力を失ってしまった。それでも太田は懸命の走りポジションダウンを最低限に留め、今季の自己最上位をひとつ更新する7位でフィニッシュした。

三宅はレース序盤で17番手に後退したが、前を行く集団に食らいついて粘り強くラップを重ねていく。すると、マシンを労わって走り続けてきたことの効果が終盤戦に入って表れ、周囲のマシンがペースを落としていく中でポジションアップ。スターティンググリッドを上回る12位まで浮上してチェッカーを受けた。

2016年全日本カート選手権 KF class 第6戦 リザルト (25台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	3	宮田 莉朋	EXPRIT TAKAGI RACING	26
2	34	角田 裕毅	Drago CORSE	26
3	9	高橋 悠之	TONYKART RACING TEAM JAPAN	26
7	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	26
12	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	26

チーム代表 片岡龍也



大会全体を通じて、ドライバーが良く頑張ってくれた印象を受けました。マシンの面では周囲に比べてアドバンテージがある状況ではなかったのですが、苦しいレースの中で順位をキープしながら戦うことで、若いドライバーたちは成長のヒントを掴んでくれたと思います。チームスタッフも効率良く作業をこなしてくれました。

太田選手は、最初の予選でやや消極的な姿勢だったことを指摘すると、その後で僕が理想とするような素晴らしいスタートを見せてくれました。第6戦の決勝でフロントブレーキに不具合を抱えた時も、今までならそういう状況で戦意を喪失してしまうこともあったのですが、今回は最後まで積極的に戦ってくれました。今回のふたつのレースで、彼は大きく成長したと思います。

三宅選手は、これまでの大会に比べて調子が上がらない印象でした。このコースでのレース経験がない不利があったのは確かですが、そういう場合はチームに対して速くなるための要求をもっとして欲しかったと思います。ただ、ドライビングの技量に問題がないことは今回も確認できましたし、彼への期待は全く変わっていません。

30 太田 格之進 /Kakunoshin OTA

AGE:16



第5戦の予選では、ペースも良く、タイヤの減り方も問題ありませんでした。それだけにペナルティを受けたことがもったいなかったと思います。決勝ではレース後半に向けて慎重にマシンをセーブしていたのですが、思ったように前に追いつけず、レースが終わってしまった感じでした。もう少し速さがあれば、結果はかなり違っていたと思います。

第6戦の決勝では、序盤で上位に行ければ、レース後半にもチャンスが生まれると思っていました。かなりタイヤに気を使って走っていたのですが、フロントブレーキを使えなくなって、リヤタイヤの磨耗も大きくなってしまいました。

第5戦も第6戦も、後ろの方からのスタートだったことでレースが難しくなっていました。それでも、すべてのヒートでスタートより順位を上げてゴールすることができたのは良かった点ですし、レースの最後まで可能な限り前を抜きに行く姿勢を見せることもできたと思います。

31 三宅 淳詞 /Atsushi MIYAKE

AGE:17



第5戦の決勝では、レース序盤に前の方で起こった混乱に巻き込まれてマシンのバランスが崩れてしまい、苦しいレースになりました。

第6戦の予選では、シャシーを組み直してもらったおかげで動きがとても良かったのですが、キャブレターを上手く合わせられずストレートで抜かれてしまいました。決勝では、上位グループを走っている同じタイヤのドライバーたちと比べてレース後半になっても遜色のないペースで走ることができました。勝てるスピードはあったと思います。それだけにタイムトライアルと予選の順位が良くなかったことが残念です。

今回の大会は、キャブレターをうまく調整できなかったことや、アクシデントでレースの流れを悪くしてしまったことなど、反省することばかりです。次の大会が行なわれるSUGOはSL全国大会で優勝したことがあるサーキットなので、自分で良い流れを作って優勝したいです。

総合ポイントランキング

- 1.宮田莉朋 (151) 2.朝日ターボ (147) 3.角田裕毅 (143) 4.名取鉄平 (123) 5.高橋悠之 (103) 6.菅波冬悟 (99) 7.大草りき (77)
8.三宅淳詞 (68) 11.太田格之進 (53)